

マタイ 30

聖霊を 冒瀆する罪とは？

マタイ福音書12章22～36節

ベルゼブル論争

Shikaoichurch.com

アウトライン

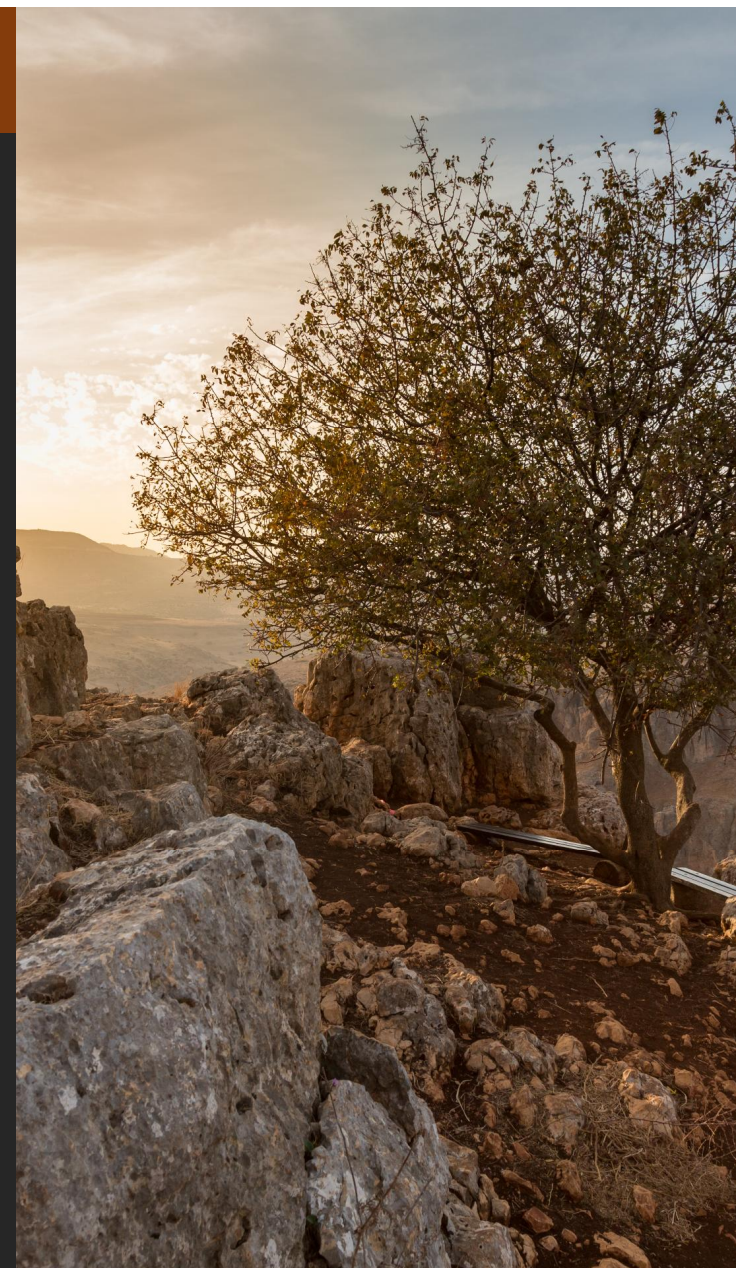
0. イントロダクション

I. 最悪の結論 12:22～24

II. 最悪の結果 12:25～36

III. まとめと適用

聖霊を冒瀆する罪





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

ベルゼブル論争

バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日(律法解釈)論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落



ついに下される、サンヘドリンの結論

■「ナザレのイエスはメシアなのか？」

➡12弟子の派遣前に、すでに広まっていた言説が!!

「家の主人が**ベルゼブル**と呼ばれるくらいなら…、マタ10:25」

■サンヘドリン(ユダヤ議会)の見解が、公のものに!!

➡悪霊のかしら(サタン)・ベルゼブルの力によるイエスの奇跡

■メシアをベルゼブルと呼んだ、イスラエルの罪。

➡その重大な結果が詳細に告げられるのが、25～36節。



I. 最悪の結論

マタイ福音書12章22～24節

ガリラヤ湖

本編

癒やし マタイ12:22

そのとき、悪霊につかれて目が見えず、口もきけない人*が連れて来られた。イエスが癒やされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった*。

*悪霊の追い出しが最も難しいケース

➡悪霊の名を聞き出せない

*メシアにのみ可能とされたメシア的奇跡

メシアの明確なしるしを示されたが…



本編

最悪の結論 マタイ12:23～24

群衆はみな驚いて言った。「もしかすると、この人が**ダビデの子***なのではないだろうか」

これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしら**ベルゼブル***によることだ」

＊**ダビデの子孫に産まれるメシア**(呼称)

＊**バアル・ゼブル**(ペリシテのエクロンの神)

➡転じて**バアルゼブブ**(ハエの王)と揶揄

➡**悪霊のかしら**(サタン)を差すように





Ⅱ. 最悪の結果

マタイ福音書12章25～36節

ガリラヤ湖

本編

論理的矛盾 マタイ12:25～26

イエスは彼らの思いを知って言われた。「どんな国でも分裂して争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも分裂して争えば立ち行きません。

もし、サタンがサタンを追い出しているのなら、仲間割れしたことになります。それなら、どのようにしてその国は立ち行くのですか。」

■ 多くの悪霊憑きがいる現実には彼らも認識。

➡ 悪の勢力が分裂しているわけではない

➡ 一致してメシアを攻撃



本編

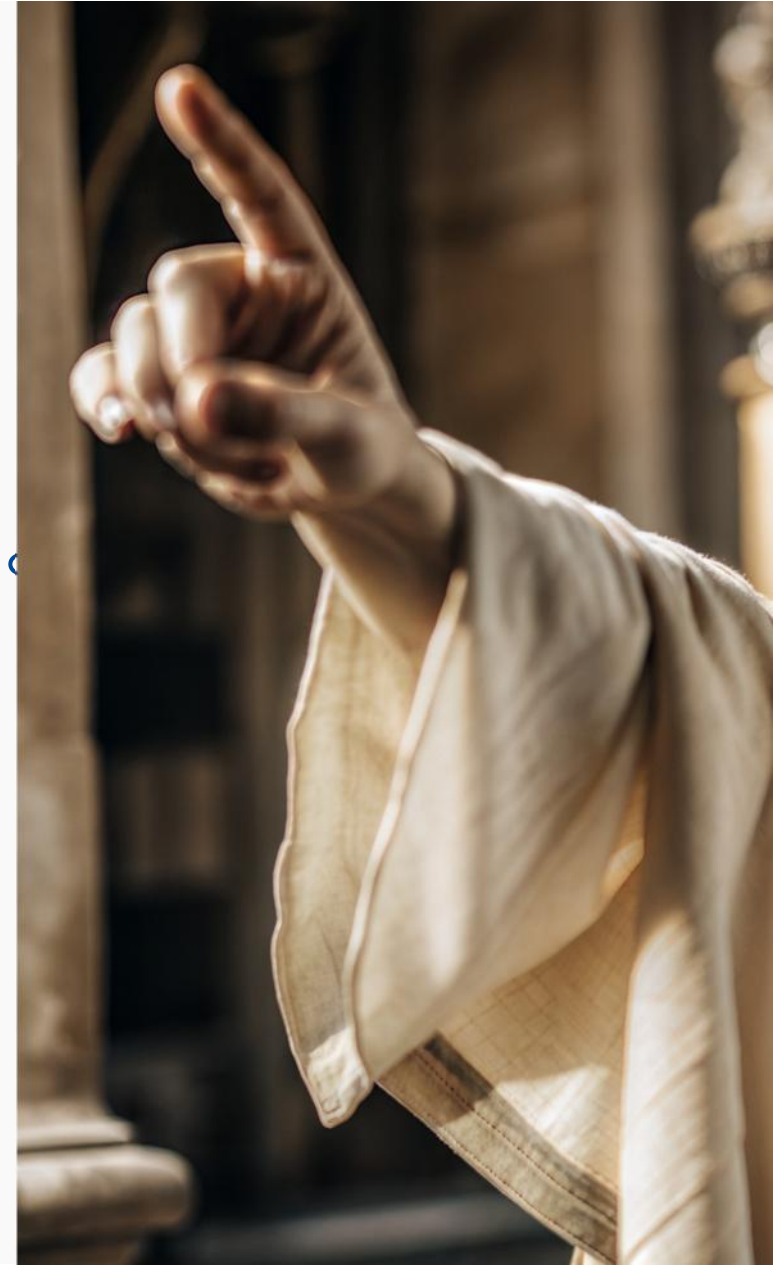
自縄自縛 マタイ12:27

また、もしわたしが、ベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているとしたら、**あなたがたの子ら***が追い出しているのは、だれによってなのですか。そういうわけで、**あなたがたの子らが、あなたがたをさばく*者**となります。

＊パリサイ派の弟子たち

＊内部で分裂し、弟子たちに訴えられる

■パリサイ人の非難が、彼ら自身に戻る。



本編

メシア的王国 マタイ12:28

しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ている*のです。

＊神の国をもたらすメシアが目の前に!!

■ 真に悪霊を追い出せるのは、神の御霊。

➡ 聖霊と悪霊は、同居不可能。

聖霊が内住される信仰者に、

悪霊がつくことはできない!!



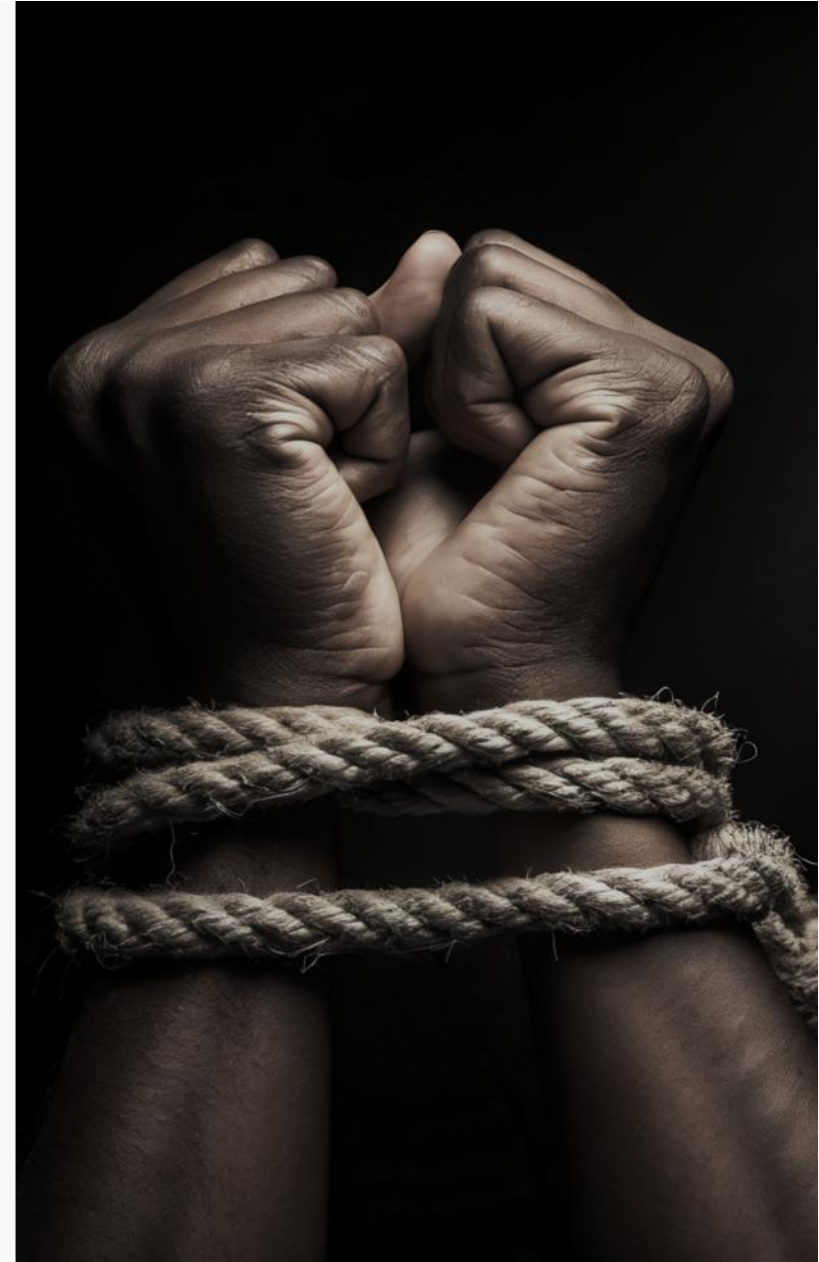
本編

メシアの権威 マタイ12:29

まず強い者を縛り上げるのでなければ、強い者の家に入って家財を奪い取ることが、どうしてできるでしょうか。縛り上げれば、その家を略奪できます。

■メシアは、神の権威をもって、その人を支配する悪霊を縛り、解放する。

➡メシアは、悪霊、サタンよりも強い
悪霊払いにサタンの助けなど不要



本編 メシアへの敵対者 マタイ12:30

わたしに味方しない者はわたしに敵対し、
わたしとともに集めない者は散らしている*
のです。

*イスラエルの民を神から遠ざけている。

➡民を散らすのは、悪の側の働き。

■メシアにつくのか？ つかないのか？

➡どちらか一つ!!



本編

聖霊への冒瀆 マタイ12:31

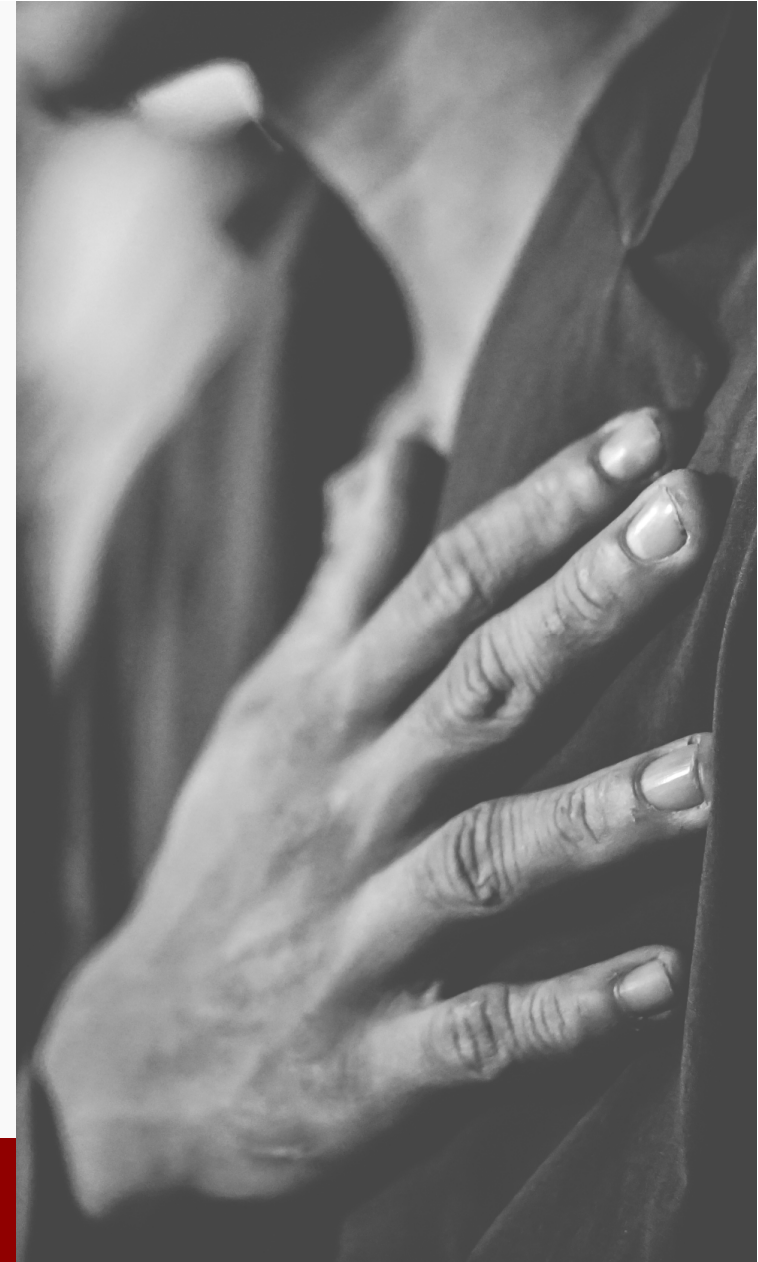
ですから、わたしはあなたがたに言います。
人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、
御霊に対する冒瀆は赦されません*。

*メシアと共に働く神の御霊を悪霊呼ばわり。

➡神の民イスラエルにあるまじき罪

■メシアの奇跡を拒絶するのは、
背後に働く神の御霊(聖霊)を拒絶すること。
すなわち、神を拒絶すること。

神の救いを拒む者を 神は救われない



本編

聖霊の働き マタイ12:32

また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、**聖霊に逆らうことを言う者***は、この世でも次に来る世でも赦されません。

***悔い改めも聖霊の助けがあつてこそ。**

■ 信仰の告白も、聖霊による御業

「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません。

Ⅰ コリ 12:3」



本編 木の良し悪し マタイ12:33

木を良いとし、その実も良いとするか、
木を悪いとし、その実も悪いとするか、
どちらかです。木の良し悪しはその実によって分かります。

■ 行いという実 ヤコブ3:17

「しかし、上からの知恵は、まず第一に
清いものです。それから、平和で、優しく、
協調性があり、あわれみと良い実に
満ち、偏見がなく、偽善也没有せん」



本編

心の内 マタイ12:34～35

まむしの子孫たち、おまえたち悪い者に、
どうして良いことが言えますか。心に満ち
ていることを口が話す*のです。

良い人は良い倉から良い物を取り出し、悪い
者は悪い倉から悪い物を取り出します。

*悪い言葉は、自分自身の悪い心から出る。
相手が言わせた？ 誰のせいにもできない。

私の心は何で満ちている？



本編

神の裁き マタイ12:36

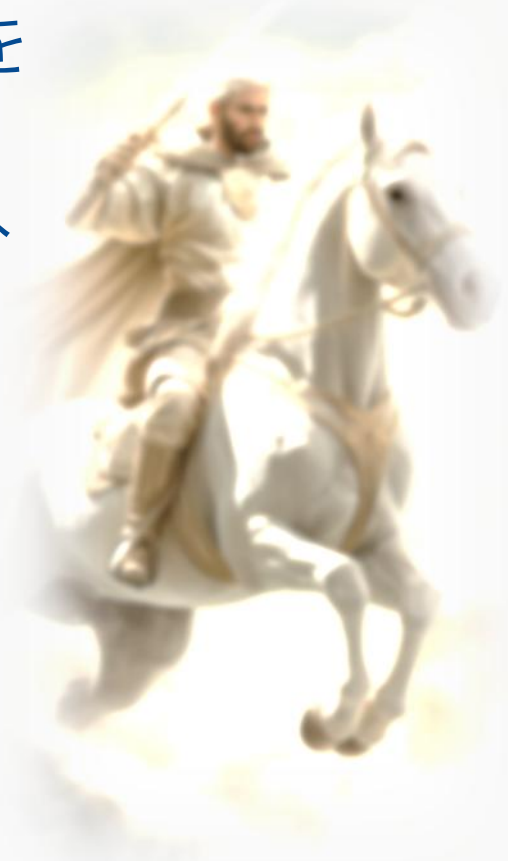
わたしはあなたがたに言います。人は、口にするあらゆる無益なことばについて、**さばきの日***に申し開きをしなければなりません。

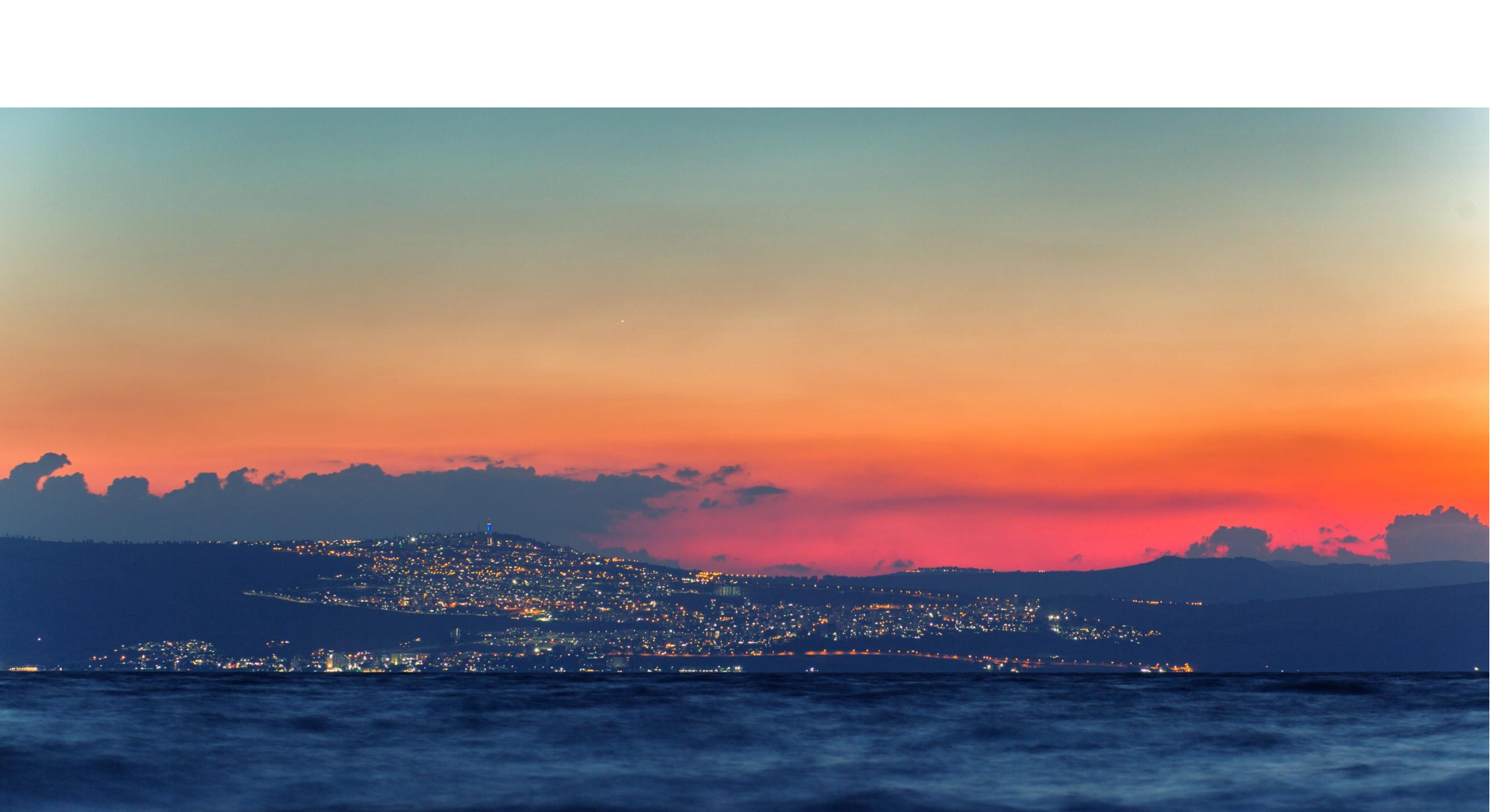
あなたは自分のことばによって義とされ、また、自分のことばによって不義に定められるのです。」

*主によるさばきの日

「ガラテヤ6:7～8 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。」





III. まとめと適用

神のいつくしみと厳しさを

ガリラヤ・ティベリアス

イスラエルがメシアを公に拒んだ結果

■ 主イエスが告げられた、拒絶がもたらす結果

- ① 自分たち自身に矛盾を抱え、**分裂**
- ② イスラエルを神のもとから**散らしてしまう**
- ③ 神の救いを拒んだ結果、自らに**永遠の滅び**をもたらす

■ 歴史的には、約40年後、ローマによるエルサレム陥落(AD70)

- ① イスラエルの諸派の**分裂**の激化から、大規模な反乱へ
- ② エルサレムの壊滅、神殿の焼失 → 世界中へ**離散**
- ③ メシアを拒絶し通した者には、当然、**永遠の滅び**が!!

今なお続く イスラエルの罪の刈り取り

■ 1948年、奇跡的にイスラエル国家が回復したが…

① 建国後も続く、内部の激しい対立

➡ 10・7直前には、国家を引き裂きそうなほどに

② ユダヤ人の半数は、なお世界中に離散

➡ 帰還した民が戻ってしまうケースも（特に欧米出身者）

③ メシアに立ち返るものはわずか。ほとんどは永遠の滅びに!!

➡ ユダヤ人によるユダヤ人宣教の広がり

増加しているメシアニックジューの存在が希望

イスラエルを待ち受ける世の終わりの最後の裁き

■大艱難時代(最後の7年)は、イスラエルへの最後の裁き

①反キリストとイスラエルの契約から開始

➡14万4千人の回心したユダヤ人による世界宣教

②後半、反キリストが神殿を汚し、大迫害を開始

➡災害や戦争で、2/3以上のユダヤ人が死去

③ユダヤ人殲滅を掲げる最終戦争(ハルマゲドン)が勃発

➡エルサレムの破壊。ボツラ(ペトラ)への避難

イスラエルの最後の希望

- ① 民族殲滅の危機に、残されたユダヤ人が、民族的回心に!!
- ② メシアが再臨、悪を撲滅。
 - ➡ 生き残った異邦人への裁き(羊と山羊の裁き)
- ③ 神の国(千年王国)の建設、エルサレム復興。
 - ➡ すべてのイスラエルは、エルサレムで主イエスに仕える

口が及ぼす災い

「舌は火です。不義の世界です。舌は私たちの諸器官の中にあってからだ全体を汚し、人生の車輪を燃やして、ゲヘナの火によって焼かれます。…舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。

ヤコブ3:6,8」

■ メシアをベルゼブル呼ばわりしたイスラエルの指導者たちは、言葉で真実を覆そうとして、恐ろしい裁きを自らに招いた。

私たちは、主への責任を負って、言葉を発しているだろうか？

刈り取りは避けがたいが…

「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から**永遠のいのち**を刈り取るのです。ガラテヤ6:7～8」

■ 犯した罪には、厳格な刈り取りがある。信仰者も例外ではない。むしろ、地上生涯においては、正確な刈り取りがあるだろう。

■ 信仰者の幸いは、福音を信じた恵みのゆえに、御霊により、**永遠のいのち**を刈り取ると約束されていること。

聖霊を冒瀆する罪とは？

■主イエスの摘発

メシアの奇跡の拒絶 = 神の御霊の拒絶 = 神の救いの拒絶

■“聖霊を冒瀆する”とは、“神の救いを拒絶する”こと。

➡「決して赦されない」 = 永遠の滅び

■公生涯の間は、主イエスをメシアと信じて救われた。

➡メシアと信じなければ、永遠の滅びに!!

今の時代における 聖霊を冒瀆する罪とは？

- “聖霊を冒瀆” = “神の救いを拒絶”
- 主イエス・キリストの福音を信じないまま、神の裁きの座へ
→ **聖霊への冒瀆**として、永遠の滅びへ
- 私たちが生かされている限り、
悔い改めと救いの機会は与えられ続けている。

恵みの時代には、聖霊による救いへの導きは途絶えない

イスラエルにも異邦人にも残されている救いの道

- **バビロン捕囚**が定まっても、個々のイスラエルには、悔い改めて、救われる道が残されていた。（捕囚先での安寧）
- **エルサレム陥落**が決定しても、個々のユダヤ人にはなお、悔い改めてメシアを信じれば、救いの道がやはり残されていた。
- **世の終わりの裁き**は間近に迫っているが、イスラエルも異邦人も、主イエスの福音を信じて、救われる。

個々人の救いの道は、メシアの再臨まで与えられ続ける

イスラエルと異邦人の救い

■ローマ人への手紙11:22

ですから見なさい、神のいつくしみと厳しさを。
倒れた者の上にあるのは厳しさですが、あなたの上にあるのは神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中に**とどまっていれば***であって、そうでなければ、あなたも切り取られます。

***本当に信じているか、主の前で誰もが明らかに!!**

★ 神のいつくしみと厳しさを ★

■ バビロン捕囚、エルサレム陥落、そして大艱難時代。

主が定められ、誰にも覆せない刈り取りは厳然としてある。

■ 一方で、個々人は、主に生かされている限り、チャンスがある。

悔い改めて、福音を信じるならば、神の怒りから救われる。

■ 神のいつくしみと厳しさを、正しく理解し、伝えて行こう。

裁きの厳しさを知るほどに、身に染み渡る主の憐れみがある。

てん　とう　わたし　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

わたし　かみ　こ　しゅ
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし　つみ　あがな　じゅうじか　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか　ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ　ふっかつ　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたし　じだい　つづ　かぎ　みたま　はた　とだ
恵みの時代の続く限り、御霊のお働きは途絶えません。

すく　ふくいん　かか　もの　わたし　つか
救いの福音を掲げる者として、私たちを遣わしてください。

しゅ　ふたた　こ　まえ　く　あらた　みちび
主イエスが再び来られる前に、悔い改めに導かれますように。

こころ　おぼ　いの　ひとびと　たましい　う　くだ　しゅ　であ
心に覚えて祈る人々の魂を打ち砕き、主と出会わせてください。

しゅ　な　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」